

スポーツ博物館将来構想検討会議の「審議のまとめ」骨子（案）

本検討会議で審議する各論点について、第1回会議でいただいたご意見をまとめたもの

〔1. JSC がスポーツ博物館（図書館を含む。）を設置する意義〕

＜検討会議での意見＞

- ・ 秩父宮様のご遺志を踏まえ、博物館がスポーツの情報発信の拠点となるべき。
- ・ 博物館の使命は社会教育の推進。行政の役目を果たしていくべき。
- ・ スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく必要がある。
- ・ 日本のスポーツの歴史の概要を知る上で貴重な資料群を活用し、海外を含めて情報発信する。
- ・ 民間ベースで運用する仕組みも検討の一つ。

〔2. コンセプト（趣旨、目的、役割）〕

＜検討会議での意見＞

- ・ 秩父宮様のご遺志を踏まえ、博物館がスポーツの情報発信の拠点となるべき。（再掲）
- ・ スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく必要がある。（再掲）
- ・ 「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」という理念をしっかりと持つべき。
- ・ 時代に合ったスポーツ文化・芸術を作っていくべき。
- ・ ミュージアム同士のネットワークの構築と役割分担が必要（コンセプトの明確化）。
- ・ 博物館の敷居を下げ、行って楽しい博物館であるべき。
- ・ 多くの人が来るようにするためには従来の博物館のイメージの払拭が必要。
- ・ コンセプト、イメージは、もっと見せ方、打ち出し方を工夫すべき。
- ・ 博物館は、入るのに敷居が高いイメージがある。例えばレストランの併設など、入りやすい要素を盛り込む検討が必要。
- ・ 世界に開かれた、少なくともアジアに開かれた博物館にしていくべき。
- ・ スポーツ博物館に来ればアジアを含めてスポーツのことがすべて理解できるだけの資料が保存されていることが大事。

〔3. 事業内容〕

● 収集・保存

＜検討会議での意見＞

- ・ メダルなど、実物資料を所蔵していくことが大事。
- ・ 資料を「見せる」、「使う」だけでなく、資料のメンテナンスを行う「保存管理」の機能を盛り込む。
- ・ 昔のことが分かる秩父宮記念スポーツ博物館の図書館資料が非常に役立った。今後、スポーツ博物館が拠点として、100年後、200年後も使われるようになればいい。
- ・ 「デジタルアーカイブ」は利用と保存の両方に活かせるが、やるには、人もお金もかかり覚悟が必要。

●展示公開

<検討会議での意見>

- ・「資料の収集、保存だけ」ではなく、資料が持つ価値を公開して、価値観の共有が一番大事。
- ・様々なテーマを設けて展示を行うことが重要。日本独自の様々なテーマ設定（「祭り」や、社会の復興とスポーツ）の展示をすれば、新しいスポーツの価値を示すことが可能。
- ・訪れた人がスポーツを「やりたくなる」「こうやったらできる」「楽しくできる」ことを紹介する形で体験できるとよい。
- ・祖父母と孫の組合せが体験できるものなど、新しい展示を取り入れるのが良い。

●教育普及

<検討会議での意見>

- ・祖父母と孫の組合せが体験できるものなど、新しい展示を取り入れるのが良い。（再掲）

●調査研究

<検討会議での意見>

- ・競技スポーツだけではなく、運動会など生活に密着しているスポーツも題材としては。
- ・スポーツを通して世界の国や人がどのように考えているのかという視点も加えると、よりスポーツ博物館としての価値が高まる。
- ・スポーツ博物館に来ればアジアを含めてスポーツのことがすべて理解できるだけの資料が保存されていることが大事。（再掲）

●交流

<検討会議での意見>

- ・ミュージアム同士のネットワークの構築と役割分担が必要（コンセプトの明確化）。（再掲）
- ・ネットワークはいろいろあり、団体のネットワークだけでなく、展示等を目的とした借用による資料のネットワーク、研修やイベントによる人のネットワークが作れる仕組みなどを盛り込むと、ネットワークがきめ細やかなものになる。

●図書室

<検討会議での意見>

- ・昔のことが分かる秩父宮記念スポーツ博物館の図書館資料が非常に役立った。今後、スポーツ博物館が拠点として、100年後、200年後も使われるようになればいい。（再掲）

〔4. 名称〕

〔5. 設置エリア〕

<検討会議での意見>

- ・独立行政法人である以上は、入場者数が一つの評価となる。人が来る、集まるという観点で設置エリアを考えては。

〔6. 面積の考え方〕

〔7. 資料収集の基本的考え方と所蔵資料の整理〕

＜検討会議での意見＞

- ・メダルなど、実物資料を所蔵していくことが大事。(再掲)

〔8. 運営形態（直営、民営など）〕

＜検討会議での意見＞

- ・国の予算だと資金も限られ、直営だと厳しい面もあるので、自由度を上げるために民間に委ねることも検討の一つ。大きな枠を JSC が見ていけばよい。

〔9. 収入確保策（収支見通し）〕

＜検討会議での意見＞

- ・博物館は、入るのに敷居が高いイメージがある。例えばレストランの併設など、入りやすい要素を盛り込む検討が必要。(再掲)
- ・人が来るようにするためには従来の博物館のイメージを払拭していくべき。(再掲)
- ・休館前のスポーツ博物館の入場者は少ない。最も多かった平成 25 年度（約 28,000 人）が当たり前ぐらいで、それ以上を目指さなければならない。
- ・過去に実施していたスタジアムツアーは、さらにコンテンツをより良くしていくことも必要。

〔10. 開館を見通した具体的な年次計画〕

【参考：第1回会議(8/1)における、将来構想検討のための論点(案)】

- ✓(独法として) J S C がスポーツ博物館（図書館を含む。）を設置する意義
- ✓コンセプト（趣旨、目的、役割）
- ✓事業内容（体験コーナーを活用した展示方法の工夫、デジタルアーカイブの活用、ネットワーク、図書館の在り方など）
- ✓名称
- ✓設置エリア
- ✓必要な面積
- ✓資料の収集方針
- ✓所蔵資料の仕分け（考え方、進め方）
- ✓運営形態（直営・民営など）
- ✓収入確保策（収支見通し）
- ✓開館を見通した具体的な年次計画